

# セイラーを生み出すDNA 研究図鑑 SAILOR'S FILE

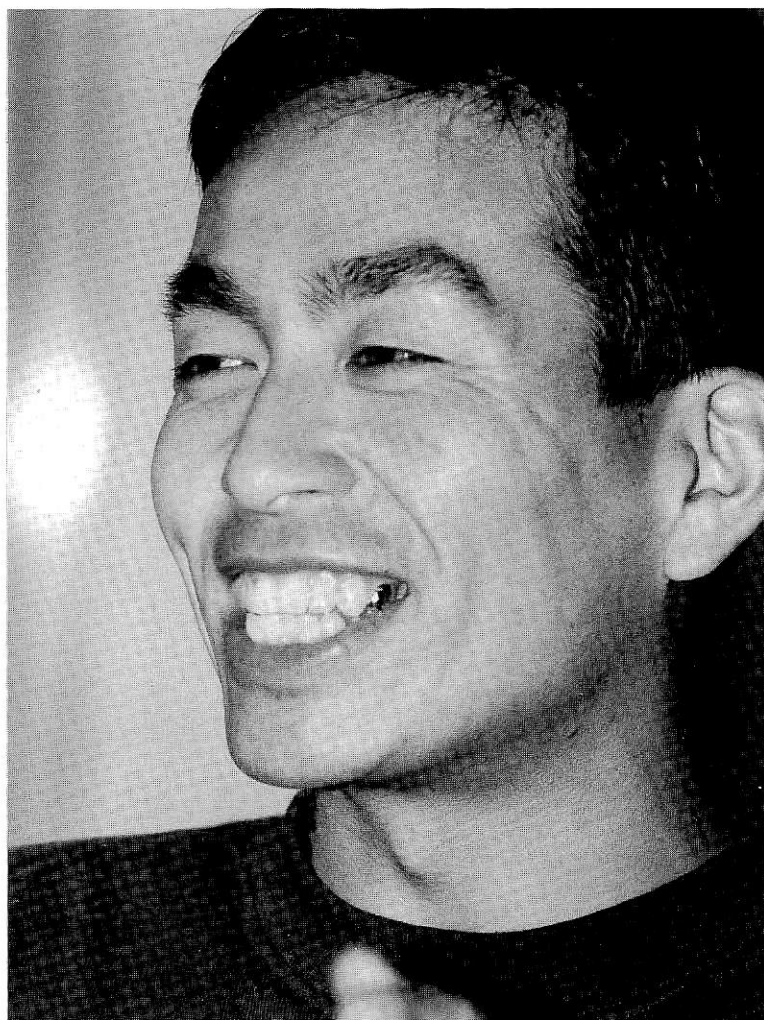
## 笑うスナイパー、カンサクはブラジルでも笑うか？

# 神作

A K I R A

# 聡

K A N S A K U



■1964年10月8日生まれ、28歳■血液型B型■千葉県千葉市出身■カミハラ技研工業(自称:町の水道屋さん)

INTERVIEW & PHOTO : Yachting

「今回なんか笑っぱなしですよ、コイツ。タックしたときに笑ってれば正解なんです、もう本当に」と甲斐選手。

昨年、境港のスナイプ全日本で優勝した甲斐艇のクルー、カンサクの笑い声はミョ〜に澄んでいてよく通る。

高校・大学を通じてスナイプ1本でヨットを続けてきた彼だったが、89年、唐津開催の世界以降はヨットレースから遠ざかっていた。

が、甲斐選手の1本の電話でコンビが復活。同時にこのコンビで2度め、本人にとっては3度めの全日本制覇で4年ぶりにカムバックを飾った。

この秋、ブラジルで開催されるスナイプワールド。そこでも彼独特のよく通る笑い声が、また、レース海面に響き渡るのだろうか…？

# 「あのとき千葉さんがテイラーをつかなかったから……ヨットの面白さが見えてきた」



「可愛かったんですよ、信じてもらえないでしょうけど」と本人の弁。3歳の頃

当てるやろつって…  
レースなんてどうでも  
いいって思ってた

——まずは月並みなんですが、ヨットに乗るきっかけから。

中学の3年ぐらいですかね、千葉市のヨット教室かなんかがあったんですよ。OPだったんですよ、きつたないヤツ。夏休みだけ募集するんですよ。またま、そこで乗っただけでしたね。面白いとか何とかいうよりも、ただ箱に乗ってるようになってただけだった。でも、それからですかね、ヨットやるうかなくて思ってたのは…。

——それ以外の動機は？

ウチの親父も昔は船乗りだったんですよ。川崎汽船だったんですよ。それにウチの親父の親戚も船乗りが多かったんですよ。キャッチャーボードに乗ってた人もいましたから、鯨見つけに、ずーっと行ってましたからね。それも幾分かはヨットへの興味につながったのかも知れない。中学のときは柔道やってたから、高校でも柔道やりたかったんですよ。

——で、高校ではすぐにヨット部に入ったの？

はい、そうですね。入ったときは20〜30人いましたけど、先輩のシゴキが厳しくて、出るときには男はボクひとりですよ…。3年生が一期生で、大野さん（84年度日大主将、磯辺高ヨット部一期生で高校大学を通じて神作の先輩。現吉田商高ヨット部顧問。現姓・古屋）とかだったんですよ。まあ、とんでもないですよ、練習だけじゃなく、遊び方もとんでもなかったですからね。自転車海に投げ込まれたりとか（笑）。こんな調子でしたから1週間たった段階で半分は減ってました。

——そういうのが伝統なんです。いつも40〜50人はいるらしいですもんね。で、そんなにいたってしょうがないですか、まず、最初はヨットなんか絶対乗せないでトレーニングだけして、それでやめちゃいますよね。ボクなんかは、中学の柔道のトレーニンングの方がよっぽど厳しいと思っちゃったけど。ヨットなんかのトレーニングって大したことないなと思ってましたから、別にやめることもないなあと。——

——高校時代で思い出に残るレースは？

高校生の頃から失格癖がついてたんです。鹿児島島のインターハイですよ、最初のレースでいきなり失格ですからね（笑）。

風がなかったんですよ、全然ね。忘れない、風上マークで走ってて、「風上・風下」で失格になったんですよ。風がないんですから当たるじゃないですか、向こうは漕いで来るんですよから、こっちは止まってるじゃないですか。そして、審問に行ったら当たってるか当たってないかきかれて…。あの頃は純粹でしたから「当たりました」

っていったんですよ。そしたら「ハイ、ご苦労さま」で失格でしたからね。そいつのことは忘れもしなかったですよ。その頃は国体行ったらカタキを討ってやるうと思っちゃったからね。当てるやろうって、もうレースなんてどうでもいいと思っちゃったからね…。

それが島根国体で、チャンスが巡ってきたんですよ、フリーのときに。今度はそいつが一番内側だったんですよ。それで水をもらう権利はあったんですけど、「そんなの知らねえよ」ってマークの外に追い出されました。そのときはスカッとしましたね。結局、そいつも日大に来たんですよ。——

——結構、執念深いヤツだったんだ。

進学しようと思ったのもその頃？

それからですね。どうにか国体で4位になれて、風が吹いたときだけだったんですよ、調子よかったのは…。それで、やっと日大に引っこかりました。それまでは、高校卒業したら消防士になろうかと思っていたんですけど、引っこかったからですね、何とか入れてよかったですね。やつぱり、大野さんがいたからですね。まず、あの人の存在が大きかったですね。——

——磯辺高卒業後、日大法学部でセレクションで入学したカンサクは、彼のヨット感を大きく変えた人物との出会いを度々繰り返すことになる。——

よくあんなに辛抱できるなと思えましたよ

すごかったですよ、あの人は。大学入ってから厳しかったですね。普通は高校の後輩には優しくするじゃない

ですか。とんでもないですよ、何回坊主になったことか分からないですよ。でも、大野さんがずっと一緒にトレーニングとかしてくれてましたよね。——

——はじめてコンビを組んだのは誰と？  
それからは、やつぱり千葉さん（現関自工、85年スナイプ全日本優勝）ですよ。大きかったですよ、千葉さんと乗り始めたことが…。最初「日・立法」っていうレースがあつて…、ピリでしたからね。日大では、とくにスナ



82年島根国体にて。高校時代同期の男子はいなかったが、他校には友達も多かった。最上段右端が本人、中央は現NCACの兵藤選手

イブの場合はクルーがコース引くって分担が決ってましたから。もう、みんな頭抱えてたんじゃありませんか…。ドンビリですからねえ、引くコースの全部が全部大ハズレつてやつで、一回も当たらないんですよ。

それでも千葉さんは自分からテイラーをつかなかったんですよ。

あがつてから、これはもう絶対オロシかなと思つて…。しょうがないですよ、まあ練習するしかないですからね、ずつと…。それで大学の合宿が終わつてからは高校で練習して、秋のイ



磯辺高校時代。インターハイの第1R失格以来「失格癖」がついてしまったらしい。国体4位の成績が、大学進学へのきっかけとなった

ンカレ(新人戦)からですかねえ、段々よくなってきた、クルーやつてることが面白かった。それにチームレースだったじゃないですか、スゴイ面白かったですよ。それからもうずっと尻上がりでした。

というのも、あのとき千葉さんがテイラーをつかなかったから、ヨットを続けていこうかなと思えたんです。それでやっと、面白さがみえてきたんですよ。でも、よくあんなに辛抱できるなと思いましたよ。

——カンサクが大学で味わった最初の試練だった。一方、その頃の日大は、83・84年と全日本インカレで完全優勝。スナイプ級に至っては、カンサク4年の全日本まで8連勝を記録して、破竹の快進撃を続けていた——

勝負に懸ける  
意気込みは  
スゴイですよ

——甲斐さんと出会ったのもこの頃でしたよね？

ええ。甲斐さんと乗らなければ、ボクはあんなにうまくはならなかったですよ。

大学2年生、いや1年の終わり頃からずっと一緒に出てたんですよ。ウルマンセイルに遊びに行つて、そこでまたま「乗らないか？」っていう話になったんですよ。最初は冗談だと思っただけですか。

元々、日大は甲斐セイルができたときから甲斐セイル使ってたんですよ。それにノースができてから、ノースとウルマンの両方を使うようになったんです、いろんな絡みで……。でも、その

ころのウルマンは波が出ちゃうとダメでしたから。でも、微風とかだったら速かったんですけど、ジブがだいぶ浅かったんですかね？

——学生のときたとセイルすぐのびちゃうじゃないですか。ですけど、セイル云々じゃなかったですからね、甲斐さんの場合は、一緒に練習してくれてたじゃないですか、それがよかったですよ。



84年蒲郡の全日本インカレでは団体戦で完全優勝を決めた。日大黄金時代の始まりだった

ヨット部卒業後、長距離トラックに転身。88年全日本でスキッパーとしても優勝した

で、みんな甲斐さんと乗りたいっていうんですけど、一度乗った人はみんな絶対乗りたくないっていうんですよ。ね、みんな。ポロクソにいわれますからね。普段の練習とか関東スナイプとかまでならいいんですけど、全日本に行ったらもう人がコロっと代わりまからね。それにみんなついて行けないじゃないですかね。

——84年10月、カンサクは南米・パラグアイで開催の西半球選手権に甲斐艇クルーとして出場し、優勝こそは逃したものの、2位入賞。11月の博多開催の全日本では、カンサク本人にとっては初優勝を経験することになった——





# 「乗れ乗れって言うのは誰でもいえる。…けど環境までは与えてもらえない」

大学では勉強するつもりはなかった

——大学卒業後は？

ボクは大学卒業してないんです、除籍ですから。3年生のときから試験受けに行っていないですから。ウチの仕事とか忙しい時期でしたし、年末とか年度末とかちょうど試験の時期はとくに、結局は親不孝ですよ（笑）。

大学では勉強するつもりはなかったんですよ。こんなこというと、また、渡辺先生（日大監督）に怒られちゃいますけどね、「ヨット部卒業はお前と井嶋（日大同期・副将、現井嶋実業）だけだ」って。

実際、諦めてやめちゃう人もいたんですけど、最初からそのつもりでしたしね。だから、そういう意味ではお互いに大学行こうっていうのは、それほどは思っていないんじゃないですかね。それで、お互い大学入ってヨットの面白さを知ったんじゃないですかね。その後もボクも井嶋（85年スナイプ全日本3位、88年京都国体・成年スナイプ3位、89年江差国体・成年スナイプ17位）もちよこちよこレースに出たりしていますね。

——で、2年のブランクの後、唐津で2度めの全日本優勝したんだよね？

そうですね。あの頃は全然乗ってないですよ、いきなり唐津に行つて。フネも龍介（磯辺高・日大の後輩、阿部龍介。87年スナイプ全日本優勝）が投げ出したようなので…。あれは周りの人々には悪かったですね、3レース成立でしたから…。

特殊な海面だったからよかったですよ。ウネリが残つて、潮が強かつたし、変な波がたつてたんですよ。それでレースの日からそれ以前と全然逆のコースになってしまったんです。だから、事前に現地入りしたチームと差がつかなくなつたんじゃないですかね。あとはクローズよりフリーで儲けてましたね。逆ヒールして逆セイルで波に乗せて走っていくのがアタリだったんじゃないですかね。たまたま、運がよかつたんですよ、そのときは…。

——この唐津がスキッパーとしては初めての全日本タイトルだったんだよね。そうですね。だけどスキッパーってあんまり面白くないですよ、ボクの場合。世間一般ではスキッパーじゃないと認められないのがありますけど…。大学4年のレースのときだけはですね、スキッパーやつてよかつた

なと思つたのは。2年とか3年とか、他はもうクルーの方が全然面白かつた。——ちよつと意外な感じだよな…。

スキッパーだと、若いうちはガムシヤラにいくじゃないですか。周りのことなんか気にせず、抑えようなんて全然思わないですよ。もう自分が思つたコースをスドゥンと行つちやいますよね。だけど、クルーになるとそういうことがなくなつて冷静に見られるんじゃないですか。

やつぱりクルーの方が「レース展開」は楽しめますよね。スナイプの場合は展開が遅いから、スキッパーでも見られる時間も長いと思つて、クルーならずっと見られますから。

そして、つぎでジャイブとかさうじゃないとかの判断や下受けのちよつとしたスレが勝負を左右するあたりはすごい…。感激しますよね。

スキッパーやりたがる人は多いですけど、ボクはそんなことはないですよ。本質的にクルーの方が面白く思つてます。ただ、考え方がクルーとスキッパーじゃ全然違いますよね。スキッパーだと1回のタックでこそつと勝たなきゃいけないっていうような考え方がしますよね。でも、そういうのって、クルーやつてるとないんですよ、ま

ずは近づけよう近づけようと思つていいですよ。考えられますもんね…頭悪いですけど（笑）。もちろん、クルーとスキッパーのどちらもやらなければダメなんですけど、どっちがどちややつても同じくらいいいじゃないかと思つてます。——パートナーについての要求はシビアな訳だ？

だから、甲斐さんとか、あとは千葉さんくらいしかクルーをやるうんか思わないです、やつぱり。ヘタな人は乗ろうとは思わないですね…、ヘタつていうとちよつとマズイかもしれないけど…。普通に走らせてもらえないんですよ。

——前年の全日本で出場権を得た89年の唐津開催のワールドでは、同僚の古川（日大後輩、現オクムラボート）をクルーに自らテイラーを握つたカンサク。結果は9位、日本人では、歌田、甲斐、杉山につぐ4番手でレースを終えた。その後は家業のカミハラ技研工業を継ぎ、ヨットに関してブランク状態となる——

ヨットはやめたくはなかつた

——唐津のワールド以降はブランクになつてたよね。

本当に仕事をしなけりやなと思つてましたよ。しょうがない、ヨットをやめるかなと思つてねえ。週休二日制の会社とかさういうんだつたらいいんでしようけどねえ…、零細企業ですから。

自営だと自由な時間も結構とれる反面、自分に跳ね返つてきちゃいますからね。それにウチはお客さん相手の商売ですから、なかなか思うようには出られないですよ。でも、やつぱり、大きな会社でもそれなりに大変なこともありますよ。ヨット部はいつてりや、イヤなと



84年の全日本で甲斐艇のクルーを務め優勝し、南米・パラグアイ開催の西半球選手権で健闘し、惜しくも優勝は逃したが、2位に入賞



きも行かなきゃならないですしね…。  
それとまた、磯辺（磯辺高校）で乗れる環境がなくなりましたよね。以前はOBが来れば生徒がフネまで準備してましたよね。「ハイ、どうぞ」ぐらいの感じだったんですけど、今じゃあ、行ったら自分で使えるマストやセイル

探したりするような状況ですからね。それに、ヨットハーバーもダメですよ、風が吹いたらすぐ出艇禁止になるようじゃ…。あれじゃ勝てないですよ、レースのときだけ吹いた状況で乗らなきゃならないっていったって…。普段乗ってないんじゃない勝てないですよ。

勝とうとしたら、もう、風がないときにレースやるしかないですよ。——もう、ヨットはやめるつもりになってたんだ？  
ヨットはやめたくはなかったんですけどね…。でも、やっぱり仕事をしながらというのは、ちょっと大きな会社じゃなければ勝てないですよ。それで、やるからにはやっぱり勝たなきゃ面白くないですよ。だから、仕事となると、結構、厳しいんですよ。  
唐津のワイルドの前なんか、勝とうという雰囲気はなかったですからね。仕事、仕事で追われて…。いざ練習するときなんか、もう、ため息フウフウってカンジでしたからね。「乗れ、乗れ」っていうのは、誰でもいえるじゃないですか。でも、乗れる環境までは誰も与えてくれませんですよ。だから、甲斐さんくらいですから条件まで揃えてくれたのは。  
やっぱり、よかったですよねーっ。ボクなんか、何年かブランクありましたもんね。でも、何かやっぱりひきつけられる魅力はありましたよね…。  
今度こそは、勝たなきゃいけない

——久々のコンビ復活で3度めの全日本優勝。その感想は？  
今回の鳥取は気持ちの上で楽に乗れましたね。甲斐さんが機装中に腰を痛めたのもひとつありましたけど、すごい楽に乗れましたよね。第2レースでメインブロックが外れたときも、普段だったら血相変えてるところですけど、そんなことなかったですから…。やっぱり（甲斐さん自身）自信があったんじゃないですかね、速かったですから。団体ではケチヨンケチヨンだったみたいですけど（笑）。だけど、それでよかったですよ、ボクにとつては…。団体でよくて、ボクが乗った全日本で悪かったら、ボクのヨット生命ももう終わりかなって（笑）。  
でも、関東スナイプとかで見ても、速かったですよね。よくみんな甲斐さんと走って、走りは余り変わらないんですけど、実際、同じ風なんていってまずけど、実際、同じ風がずつと吹いてりゃ、スナイプなんてスピードは変わらないですよ。でも、強弱が出てきたときなんかはうまいですよ、走らせるのは…。スーツと前にですすから。ああいうところはすごいうまいですよ。だから、やっぱりかなわないですよ。全然、秘密がないですからね。同じようにチューニングとかは教えますからね。  
ちょっと分かんないですよ、一緒に乗った人じゃないと、あの細かいところまでは、分からないですよ。  
——ブラジルのワイルドでの勝算は？  
…今度こそは、勝たなきゃいけないですよ。そろそろ勝てると思えますけど。歌田さんがあそこまで行ったんだし（唐津のワイルドでは日本人最高位3位）。今度こそ優勝しなければバカにされちゃいますよね（笑）。  
——本質的に面白いと感じるクルーとして、スナイプの本場ブラジルで、信頼できる師匠とともに乗れるという最高の条件と環境を手に入れたカンサク。今秋のブラジルでのワイルドのレース海面でも、また、よく通るあの笑い声が聞かれるような気がしてならない

### インタビューが終わって…

インタビューのアポを取るためにカンサク宅へ電話した。  
「カンサクさんのお宅ですか？、ここまではよかった。  
「サトシさんいらっしゃいますか？」  
「少々お待ちください。……アキラく〜ん、電話」……。  
モグリであることを露呈してしまったが、今後のためには役立った。  
この秋、南米ブラジルでスナイプワールドが行われる。このワールドで日本人が優勝したことはいまだかつてない。また、1レースさえトップフィニッシュした選手はいないらしい。が、10年ぶりに復活した最強コンビは歴史をかえるだろう。そのレースリザルトのM.KAI / A.KANSAKUの“A”でもう悩むことはない。



「仕事は至って真面目。Hなのがちょっと…」と機高後輩の北林くん(左)。普段は家業の設備会社の若大将として現場で汗を流す



インタビューには彼女の高橋日和子ちゃんを同伴でご登場…。どうもご馳走さまでした!!